

研究課題名	Fyn の発現と再発危険因子をもつ子宮頸癌に対する術後補助化学療法の効果予測に関する検討
研究の意義・目的	Fyn は、正常な細胞の成長や増殖に関わるだけでなく様々な癌細胞において過剰に産生されており、癌細胞の増殖や抗癌剤耐性に関与していると報告されています。手術の際に摘出した標本における Fyn の発現と、再発危険因子をもつ子宮頸癌に対する術後補助化学療法の効果との関連を調べることで、治療効果を予測する因子を見つけることが目的です。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2015 年 8 月~2022 年 12 月に大阪市立大学医学部附属病院および大阪公立大学医学部附属病院の婦人科で、特定臨床研究「課題名：再発危険因子をもつ子宮頸癌に対する術後補助療法としての TP 療法の忍容性と有効性の検討」(jRCTs051180220) の研究参加に同意し、子宮頸癌に対して広汎子宮全摘術を受けられて術後補助化学療法を実施された方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	特定臨床研究（実施許可番号：OCU0007、課題名：再発危険因子をもつ子宮頸癌に対する術後補助療法としての TP 療法の忍容性と有効性の検討）のデータを使用させていただきます。本研究で追加で取得する項目はありません。 使用するデータ： ①患者基本情報：年齢、性別、診断名。 ②血液検査結果 ③生理検査結果 ④画像検査結果 ⑤予後 ⑥治療効果 Fyn の発現は既存の試料（手術の際に得られた病理組織検体）を用いて測定します。
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科女性病態医学のみで行います。 【研究責任者】角 俊幸
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータや手術の際に摘出した組織は、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対

<b>したくない場合</b>	象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
<b>連絡先</b>	大阪公立大学医学部附属病院 婦人科 担当者氏名：福田 武史 電話番号：(06) 6645-3862